

安全保障輸出管理について思うこと 看護技術の軍事転用はありうるのか

今や、すべての大学に内部統制システムが必須となり、大学管理者の研修会では、特に軍事転用の可能性のある技術の海外流出に関する規制を強化する必要性について、たびたび、国から講習があります。つまり、大学の研究者は、開発している技術が、軍事転用されるかもしれないという危機感をもって、国外にその技術が流出する危険性を認識しなさい・・・、それにあたっては、大学内に規則を定め、国際会議、留学生への情報提供、国際的な共同研究の際は、特段のチェックを行う仕組みを持つべし・・・というわけです。

民生品が軍事利用されることにはもちろん抵抗がありますが例を挙げればきりがなく、反対に戦争のために開発された技術が私たちの生活を豊かにしてくれていることも、まぎれもない事実です。実際のところ、生活を便利にする特定の技術が武器にも使える技術なのかどうかは、容易に想像できるものもあれば、かなり難しいものもあります。

とはいっても看護学の大学で生み出される技術というのは、さすがに相手を攻撃する武器にはならないだろうと確信しておりました。つまり、看護系の単科大学である本学は、工学部など理系学部を持つ大学のように、詳細な規定をつくるのではなく、内部統制システムのなかに「技術輸出について」触れる程度でよいのではないかと考えていたわけです。

「一応聞いてみようか」というつもりで、ChatGPT4 他いくつかの AI に「軍事転用される可能性のある看護技術ってありますか」という質問をしてみました。なんと、AI の答えは「あります」「素晴らしい看護の技術によって、兵士の傷病回復がすみやかに行われるとしたら、それは武器の増強と同じことを意味します。」「また、看護の技術によって、兵士の死を回避し、戦力を維持することにつながれば、戦争は長引くことになります。」この回答、どう思いますか？兵士は武器なのか？兵士の傷病回復を助けることは戦力の維持になるのか。ナイチンゲールは敵味方の区別なく兵士の傷病の手当てをしたと学びましたが、戦争を長引かせ、被害を大きくすることにつながったのか？

この回答は人工知能が創出するものですが、アクセス可能な大量の情報を取り入れて再構成する過程も含んでいますので、恐ろしいことに、AI の回答は、むしろ一般的なのかもしれないのです。だからといって、目の前の傷病者を手当てしないという選択肢はないわけで、兵士は武器であるとか、回復させれば戦争が長引くなどという考えは、ばかばかしいと思います。しかし、広島・長崎の原爆のおかげで戦争が終わったと考えているアメリカ人は多いわけで、AI がこのように回答するのも無理はないのか・・・。暗澹たる思いです。

もちろん、AI は看護技術の軍事転用リスクを述べた後で、「人命救助や健康増進を目的に行われる看護を軍事目的に転用することは、倫理的に問題が大きく、国際的な非難を招くだろう」としています。

かくして、本学は看護学の単科大学であるにもかかわらず、大学として、軍事転用の可能性のある技術の海外流出を規制する決まりごとを作らねばならず、このような（あえて言わせていただければ）「不毛な」文書作りの作業を（体制側から）強いられる風景は、どこかで見たような・・・。ハッと気づいた時は、戦争を回避するためと言いながら、実は知らないうちに第3次世界大戦への道を歩まされているのではないかと深く憂慮するのであります。